

4文庁第1299号  
令和4年6月23日

各 都 道 府 県 知 事  
各都道府県教育委員会教育長  
各 指 定 都 市 市 長      殿  
各指定都市教育委員会教育長  
各 国 公 私 立 大 学 長

文化庁次長  
杉 浦 久 弘

令和4年度国語問題研究協議会の開催について（通知）

文化庁では、国民の国語に対する関心を高めるとともに、国語施策の充実に資するため、毎年度、国語問題研究協議会を開催しています。令和4年度は、別紙開催要項のとおり、オンラインで開催することになりました。

ついては、開催の周知及び参加希望者に対する御配慮をお願いします。一部時間帯のみの参加も可能で、登録者に対する後日のオンデマンド配信も予定しています。

なお、参加の申込みについては、以前は貴都道府県、貴指定都市又は貴大学法人でお取りまとめいただいていたましたが、令和4年度は参加者が各自で申し込む方式になります。

※ 参加・視聴登録方法や本研究協議会の詳細は下記 URL を御覧ください。

URL: [https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_shisaku/kyogikai/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html)



← QR コード  
からも御覧  
いただけます。

本件担当 文化庁国語課  
国語調査官 町田 互  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2  
TEL 03-5253-4111(代) 内線 2842  
FAX 03-6734-3818  
E-mail kokugoiken@mext.go.jp

## 令和4年度 国語問題研究協議会 開催要項

### 1 趣 旨

我が国の国語施策について周知するとともに、国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方法等について研究協議し、国語に対する関心を高めるとともに国語施策の充実に資する。

なお、本協議会は、国の国語施策の一環として、その普及と理解の促進を狙いとしている。

### 2 主 催

文化庁、新潟県教育委員会、和歌山県教育委員会

### 3 開催方法

オンライン開催及びオンデマンド配信

### 4 開催日

令和4年8月23日（火）

### 5 日 程

13:00	13:05	13:20	13:50	14:20	14:30	14:40	16:25	16:30
開 会 挨 拶	会 の 説 明	取 組 報 告 1	取 組 報 告 2	取 組 報 告 ま と め	休 憩	シンポジウム	閉 会 挨 拶	

※上記日程は都合により変更することがある。

### 6 内 容

- (1) テーマは「社会における漢字の現在地」とする。
- (2) 取組報告1及び2は、共催県教育委員会に選任された報告者が、それぞれテーマに関連する取組について報告を行い、その報告を受けて文化庁からまとめのコメントを行うものとする。
- (3) テーマについての理解を深めるため、有識者によるシンポジウムを実施する。

○ 取組報告

新潟県

テーマ：漢字を適切かつ豊かに活用できる能力の育成

— 複数字形の「表現の豊かさ」と、  
標準字形の「扱い所」としての価値を学ぶ —

発表者：新潟県教育庁義務教育課

和歌山県

テーマ：漢字学習の現状とこれから

発表者：和歌山県教育委員会県立学校教育課

○ シンポジウム登壇者（五十音順、敬称略）

笹原 宏之（早稲田大学大学院教授、日本漢字学会理事）

関根 健一（日本新聞協会用語専門委員、元読売新聞東京本社編集委員）

棚橋 尚子（奈良教育大学教授、日本漢字学会理事）

司会進行：武田 康宏（文化庁 主任国語調査官）

## 7 参加者

参加者の範囲は、主として次のア～オに該当する方とする。ただし、国語に関心のある一般の方からの希望にも広く応じるものとする。

- ア 指導主事及び幼児教育・初等中等教育諸学校の教職員並びに大学等の教職員
- イ 社会教育関係者、図書館関係者、報道・出版関係者
- ウ 国及び地方公共団体の職員で、公文書の作成指導又は広報資料の作成に携わる者
- エ 学校教育及び社会教育に携わるボランティアメンバー
- オ その他、教育や企業研修等に関わっている者

## 8 参加・視聴登録方法

文化庁ウェブサイト（下記 URL）に示される参加・視聴登録方法に従って、本人が直接文化庁に申し込む。

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_shisaku/kyogikai/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html)

## 9 その他

国語施策の説明については、上記文化庁ウェブサイトを示すリンク先でテーマ別の紹介動画を公開する形で実施する。

○ 国語施策の紹介動画

- ・ 国語施策について
- ・ 「敬語の指針（答申）」
- ・ 「常用漢字表（内閣告示）」
- ・ 「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」
- ・ 「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」

# 令和4年度 国語問題研究協議会

## テーマ 社会における漢字の現在地

情報機器の普及で、難しい漢字も簡単に変換できるようになった一方、  
文字を手書きする機会が大幅に減少しています。  
このような現代社会において、漢字や漢字教育の在り方について考えてみませんか。

令和4年  
**8月23日(火)**  
13:00～  
16:30

### 主 催

文化庁、新潟県教育委員会、和歌山県教育委員会

### 開催方法

**オンライン開催**(+登録者へのオンデマンド配信)

シンポジウム登壇者 (五十音順、敬称略) ※シンポジウムは 14:40～16:25



笹原 宏之

早稲田大学大学院教授。日本漢字学会理事。  
「常用漢字表」や「人名用漢字」の制定に関わる。  
編著書に「日本の漢字」(岩波新書)、「漢字  
ハカセ、研究者になる」(岩波ジュニア新書)、  
「漢字に託した『日本の心』」(NHK出版新書)、  
「漢字博士がマンガで解説!漢字が好きになる!!」  
小学館、監修)、「当て字・当て読み 漢字表現  
辞典」(三省堂、編)、「新明解国語辞典」(三省堂、  
共編)等。



関根 健一

日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京  
本社編集委員。「常用漢字表」の字体・字形に  
関する指針の取りまとめに関わる。著書に  
「ちびまる子ちゃんの似たもの漢字使い分け  
教室」(集英社)、「なぜなに日本語」(三省堂)、  
「文章がフツーにうまくなるとっておきの  
ことば術」(大修館書店)、「マスコミ用語担  
当者がつくった 使える!用字用語辞典」(三省堂、  
共著)等。



棚橋 尚子

奈良教育大学教授。日本漢字学会理事。  
公立中学校、国立大学附属小学校の勤務経験が  
ある。「常用漢字表」の字体・字形に関する指針の  
取りまとめに関わる。編著書に「言語・漢字指導  
の方法:確かな定着と活用のために」(光村図書、  
共編著)、「小学新漢字辞典(三訂版)」(光村図書、  
共編)、「小学新国語辞典(三訂版)」(光村図書、  
共編)等。

武田 康宏

文化庁主任国語調査官。  
「常用漢字表」の字体・字形に  
関する指針の取りまとめに  
関わる。

### 司会進行

# プログラム

8月23日(火)

13:00～13:05	開会挨拶
13:05～13:20	会の説明
13:20～13:50	取組報告①
13:50～14:20	取組報告②
14:20～14:30	取組報告まとめ
14:30～14:40	休憩時間
14:40～16:25	シンポジウム
16:25～16:30	閉会挨拶

プログラムは都合により変更になる場合がありますので  
あらかじめ御了承ください。

## 取組報告

13:20～14:30

### ① 漢字を適切かつ豊かに活用できる能力の育成

— 複数字形の「表現の豊かさ」と、  
標準字形の「拠り所」としての価値を学ぶ —

新潟県教育庁義務教育課

### ② 漢字学習の現状とこれから

和歌山県教育委員会県立学校教育課

### ・取組報告まとめ

## シンポジウム

14:40～16:25

### 「社会における漢字の役割と漢字教育」

国の漢字施策にも関わった、各分野を代表する  
有識者3名を迎えて開催するシンポジウム

【登壇者(敬称略)】 笹原 宏之、関根 健一、棚橋 尚子

【司会進行】 武田 康宏

### 佐野 哲郎 新潟県教育委員会教育長からのメッセージ

漢字は私たちの社会生活になくてはならないものです。学習指導要領では、漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすることとされています。本県からは、小学校における漢字指導について、児童が漢字の姿に注目した学習活動を通して表現の豊かさに気づき、標準とする字体を手本にして形を整えて漢字を書くことの意義を考える実践報告をします。

### 宮崎 泉 和歌山県教育委員会教育長からのメッセージ

学校現場にパソコンやタブレット端末が普及し、子供たちの学びのスタイルは大きく変化しています。デジタル化により文字を手書きする機会が減少する中での「漢字」の学習について、和歌山県の取り組みを紹介しながら、教員への意識調査をもとに報告します。

「国語問題研究協議会」は、昭和25年以降、我が国の国語施策について、広く知っていただき、国語をめぐる諸問題について、改善の方法等を研究協議し、国語に対する関心を持っていただくことと、国語施策の充実に資することを目的とし、毎年度、開催してきました。令和4年度は、「社会における漢字の現在地」をテーマに、昨年度に続き東日本地区・西日本地区合同で、オンライン形式による開催とし、有識者によるシンポジウム、国語問題に関わる取組報告を実施します。学校の国語科教育に携わる方をはじめ、国語に関心のあるどなたでも御参加いただけます。

文化庁 URL [https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_shisaku/kyogikai/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html)

参加申込方法 令和4年6月23日以降、文化庁ウェブサイトにて参加申込を開始します。

問合せ先 文化庁国語課 国語調査官(担当:町田)

電話 03-5253-4111(内線2842) e-mail [kokugoiken@mext.go.jp](mailto:kokugoiken@mext.go.jp)

